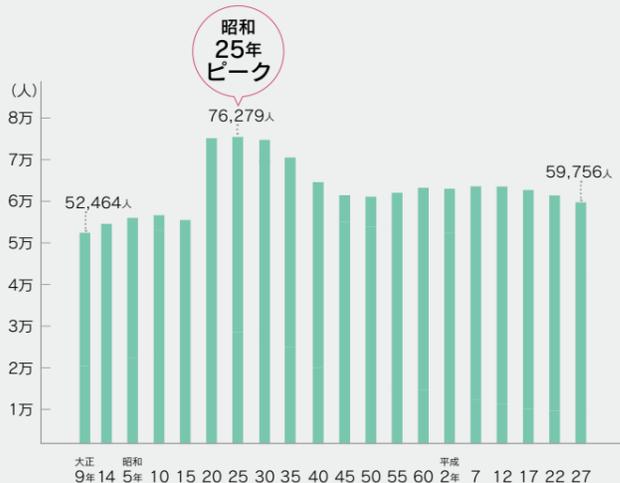


3 宇城市の人口推移



国勢調査 豆知識

日本近代統計の祖 杉亨二

1828(文政11)年、肥前国(現在の長崎県)に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、1853(嘉永6)年、勝海舟と出会い、その私塾長となりました。1855(安政2)年、勝の推薦を受け、幕府に仕え、1871(明治4)年に設置された太政官正院の統計局前身にあたる「公表課」の大主記に任命されました。このことから、「初代・統計局長」ともいわれています。統計教育の先覚者でもあり、「日本近代統計の祖」と称されました。1879(明治12)年、国勢調査の試験調査ともいえる「甲斐国現在人別調」を実施しました。



スペイン風邪と新型コロナウイルス

2020(令和2)年、世界は新型コロナウイルスの猛威を振りぬき死者数が80万人を超えています。100年前を振り返ってみると奇しくも世界中で「スペイン風邪」が大流行し、5億人が感染、1700万人以上が死亡したといわれています。

スペイン風邪は1918(大正7)年に日本でも流行が本格化し1919(大正8)年7月までが第1波、9月から翌年7月までが第2波、そして8月から翌年7月までが第3波でした。

第1回国勢調査が行われた10月は第3波の真っただ中だったこととなります。



国立保健医療科学院図書館所蔵
内務省衛生局著
「流行性感冒」1918.10.3

国勢調査の由来
国勢調査は人口センサスとも呼ばれますが、これは、2千年以上前の古代ローマ時代、人口調査や財産評価などを担当した役職のセンソールが語源といわれています。近代センサスは17世紀、欧米諸国で社会構造を明らかにするために始まりました。日本では1902(明治35)年に法律が制定されるも日露戦争の開戦により予算が確保できず、法律制定から15年後によ

統計の活用事例
各種法令に基づき次のようなことに利用されます。
● **国家運営の基礎に利用**
・ 衆議院の小選挙区の改定
・ 地方交付税の算定基準
● **公的統計の作成・推計に利用**
・ 将来人口、世帯数の推計
● **社会経済の発展を支えるデータとして**
・ 人口学、経済学、社会学など学術研究での利用
・ 製品・サービスの事業予測や、店舗・工場の立地計画、企業などの経営分析予測など

やく実施。第1回国勢調査は国を挙げて大きな盛り上がりの中で行われました。1922(大正11)年には法律が改正され、5年に一度の実施となり国勢調査は確実に定着していきました。

総務省統計局のホームページ「国勢調査100年のあゆみ」では、国勢調査の歴史や各回の調査結果概略がまとめられています。講談調の動画で分かりやすい説明も。



日本の人口100年
① 日本全体で見ると前回2015(平成27)年の国勢調査で初めて人口が減少しましたが、大正9年の約5600万人

宇城市の100年
③ 宇城市を見ると大正9年の人口は5万2464人で、人口のピークは、実は1950(昭和25)年の7万6279人。終

戦後のベビーブームによるものでした。そこから一時減少しましたが1975(昭和50)年の6万1448人を境に第2次ベビーブームの影響で増加に転じ、1995(平成7)年には6万4008人まで戻っています。それから20年。前回の調査では6万人弱まで減少。今回の調査では約5万8千人となると推計されています。これは、太平洋戦争以前の1935(昭和10)年の5万6826人と近い水準

センサスくん(左)
未来の時代を担う赤ちゃんをイメージして、平成2年の国勢調査から登場



みらいちゃん(右)
インターネットによる回答を促進するため、前回の国勢調査で初登場

国勢調査って？

国勢調査は5年に1度の最も重要な統計調査で、10月1日現在で日本国内に普段住んでいる全ての人(外国人を含む)と世帯が対象になります。

② 世帯数は約5倍に増加しましたが、1世帯当たりの人数が4.8人から2.4人に半減。3分の1以上が単独世帯です。

もっと詳しく国勢調査 — データ&豆知識 —

国勢調査の調査事項

1 世帯員に関する事項(15項目)

- ・ 氏名 ・ 男女の別 ・ 出生の年月
- ・ 世帯主との続柄 ・ 配偶の関係 ・ 国籍
- ・ 現在の住居における居住期間
- ・ 5年前の住居の所在地
- ・ 在学、卒業など教育の状況 ・ 就業状態
- ・ 所属の事務所の名称および事業の種類
- ・ 仕事の種類 ・ 従業上の地位
- ・ 従業地または通学地
- ・ 従業地または通学地までの利用交通手段

2 世帯に関する事項(4項目)

- ・ 世帯の種類 ・ 世帯員の数
- ・ 住居の種類 ・ 住居の建て方

国勢調査のデータを見てみよう

1 全国の人口の推移 (大正9年~平成27年)

100年で人口は約2.3倍に
大正9年の調査開始以来、初めての人口減少



2 一般世帯の3分の1以上が「単独世帯」に

一般世帯を世帯の家族類型別割合で見ると、平成12年は「夫婦と子どもから成る世帯」が最も高くなっていましたが、27年は「単独世帯」が最も高く一般世帯の3分の1以上となっています。

